今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇3日11日～

先週はついに日経平均が4万円を超えましたが週末の雇用統計と日経平均先物オプションのSQがあった週末には株も乱高下し、最後は下げてマーケットは終わっています。
ビットコインも1000万を超え、金（ゴールド）もドル建てでも円建てでも上昇しています。
ただし、米国株は上値が重くなってきているので、今週は調整入りとなる可能性が高く、年初から続いたリスクオン相場の巻き戻しが起こる可能性があります。
そして、為替相場では一足先に調整入りのような動きが出ています。
先週は週初めからドル／円が下げ初め、週足でも陰線で終わっています。
日本が金融政策正常化にいよいよ動き出すということで、円高に動きやすい状況になりつつあります。
マイナス金利解除となっても利上げがどこまで進むかは不透明で、米国との金利差は大きい状態がしばらく続くと思います。
そうなると長期的なトレンドが円高に転換するかどうかまではわかりません。
米国の利下げについては、だんだんトーンダウンしてきているのため5月も金利据え置き予想が増えています。
さらに、利下げをその後に継続して行うのかどうかも今の段階ではわかりません。
先週末に発表された米国の雇用統計で失業率が予想より悪化していたこともあり、ドル／円は一時146円半ばまで急落後、発表前のレートあたりまで戻して終わっています。
相場は上昇と下落を繰り返しながら大きなトレンドに沿って動きます。
上昇幅が大きければ下落幅も大きくなるリスクがあります。
今週は米国では消費者物価指数や卸売物価指数などインフレを見る上で重要な指標発表があります。
また、先週ECB（欧州中央銀行）の金融政策発表で、ラガルド・ECB総裁は利下げについて議論しなかったと発言しました。欧州の利下げも予想より先になる可能性があります。
欧米ともに金融政策が現状維持のまま日本だけが金融政策変更となれば、大きな動きが出るかもしれません。
今後、日本では賃上げに関する春闘の回答なども出てくるため日銀が春闘の結果を見て、デフレからインフレへ政策を転換するかどうかに注目が集まります。
3月は急落が起こりやすい時期だけに乱高下に気をつけながらトレードしたいです。

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved

今週の相場はどうなる？

今週の相場はどうなる？

● テクニカルで見た重要ポイントは？

＜ドル／円＞

先週のドル／円は、146円台のサポートを割り込まずに反発してマーケットが終わっています。
テクニカルで見ると久々に週足で大きめの陰線となっており、この下げの流れが週明けからも続くかどうかがポイントになります。
2月初めにつけた安値の145円台後半を割り込んでくると円高が加速するかもしれません。
146円あたりで下げ止まって、一旦の底をつける動きになるかどうかが重要です。
上値は、まずは雇用統計後につけた147円台半ばあたりを超えてくるかに注目です。
ここを超えると148円台に抵抗があります。
148円台後半にも抵抗があり、149円を超えるのには苦戦するかもしれません。
今週は145．8－148．5円程度のレンジを意識しながらトレードしたいです。

＜気になるクロス円＞

クロス円も先週は週足が陰線で終わっているペアが多く、週明けからの下落には注意がいります。
安値更新の動きが続く間は、買いは見送りが安全です。
トルコリラは年末・年始につけた安値をさらに下回ってきており、最安値更新の動きが止まるまでは買いは危険です。
今週はどちらかというと売り目線でトレードを考えた方がいいかもしれません。

＊クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

＜今週のファンダメンタル？＞

日本では10－12月期GDP（改定値）などがあります。
米国では2月消費者物価指数、2月月次財政収支、2月卸売物価指数、2月小売売上高、前週分新規失業保険申請件数、3月ニューヨーク連銀製造業景気指数、2月鉱工業生産、3月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。
欧州ではドイツで2月消費者物価指数、ユーロ圏で1月鉱工業生産などがあります。
ほかには、英国で1月GDP、1月鉱工業生産の発表などがあります。

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved